食品ロスを減らすために、私たちにできることは?



地域名 栃木県小山市 パートナー名 小山市環境課

16班 コミュニティデザイン学科 建築都市デザイン学科 社会基盤デザイン学科

グループ指導教員

小島花凛 牧野塁 野村廉次朗 住谷竜也 大森玲子

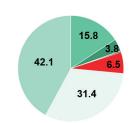
背景

「食品ロス」とは、本来食べられる食品が様々な理由から廃棄されることであり、社会全体で環境負荷や資源の無駄使いなどの問題を招く。

小山市では、令和6年度の市内家庭ごみ調査の結果から、燃やすごみとして廃棄されたうち、約6.5%がまだ食べられる状態で捨てられた食品ロスであることが判明した(図1)。

目的

食品ロスが多く発生している現状を踏まえ、食品ロスを削減するための取り組みを学生らしい視点から考案し、市民の意識・行動変容を促す一助となる取り組みを実践する。



■リサイクル可能である可燃系資源物

鈴木利惟 樋口美穂

■プラスチック包装容器

■ 不燃系資源物、不燃ごみ

■ 食品として使用可能な食品ロス(約6.5%)

□食べ残し、食品の皮などの食品ロス

□ 適合物(燃やすごみ)

(引用元)小山市 燃やすごみの組成分析調査結果について 令和6年1月25日実施

図1 小山市内の可燃ごみの内訳(%)

1st Cycle

①実態調査



•規格外商品



流涌

•返品

・納品切れの商品

消費

•食べ残し

調理過程でのロス

の発生 【生産】

株式会社 新日本農業

→規格外商品から商品製造

【生産・消費】

Sunフーズ株式会社

→古米からクラフトビール製造

【流通·消費】 宇都宮大学生協

→食品ロス排出量の管理

【流通·消費】

子どもの居場所「おひさま」

→フードドライブ事業

②課題の発見

- ・食品ロスは様々な過程で発生する
- ・問題の規模が大きい
- ・食品ロスに関する様々な施策が行われているが、市民の認知が低い

③2nd Cycleに向けての目的設定|

学生らしい視点=「学生の1st Cycleの学びを取り組みに反映させる」 【2nd Cycleの目標】

→食品ロス発生の過程や問題について学生自ら率直に考えたこと・ 感じたことを伝え、市民の**意識・行動変容を促す**

効果の検証

読み聞かせのアンケート調査

目的: 絵本の読み聞かせを通して子どもたちに意識変容が起こったか どうか検証する

対象:小山市立小学校の学童保育を利用する小学生46名

(内訳:1年生12名、2年生13名、3年生15名、4~6年生6名)

食べ物のありがたみを感じたか

好き嫌いせず食べようと思ったか

食べ物を残さず食べようと思ったか

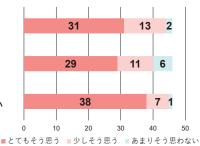


図2 読み聞かせのアンケート調査(人)

絵本を読んで食べ物に対する前向きな認識が生まれた

2nd Cycle

①対象・製作物の検討

- ・子どもは率直に受け入れてくれる
- ·保護者への波及効果
- → 対象:**「子ども(幼児~小学校低学年)」**

子どもたちに食品ロスを わかりやすく伝える

「絵本」の制作

②絵本制作



1.シナリオ、絵を製作

ストーリーの軸:

「食品ロスが様々な理由で生まれている」 「食べ残しを減らし、食べ物を大切にしよう」



2.参考資料の製作

親子で食品ロスに対する理解を深めてもらうため、食品廃棄の流れや取り組みを伝える参考資料を制作

3.子どもたちからのフィードバック

子どもの居場所「おひさま」を利用する子どもたちに読み聞かせを 行い、絵本の内容や表記に関する改善点のフィードバックを得た

4.絵本の修正・仕上げ

子どもたちからのフィードバックを基に絵本部分の修正を行い、 参考資料とともに編集した

例)1ページあたりの場面展開を抑える、平仮名標記の設定







修正前

修正後:ページ、イラストを追加

今後に向けた課題・提案

絵本・参考資料の効果アップに向けた課題

- ・子どもたちの興味を引き付ける誘導・仕掛けづくり
- ・絵本として読む場合と読み聞かせをする場合の受け止めの差異を踏まえ、それぞれで効果のある利用法を提案する

絵本の利用場面・使い方の提案

- ・食育関係の授業にて絵本の読み聞かせを行うとともに、実践を伴った食品ロスに関する知識・スキルを身に着ける
- 市のホームページ等に公開し、家族で絵本を読んでもらう

謝辞

調査・取り組みの実践に多大なるご協力をいただきました小山市環境課様、ならびに調査にご協力いただきました団体・企業の皆様に御礼申し上げます。誠にありがとうございました。